愛知東邦大学　シラバス

開講年度(Year)	2023年度	開講期(Semester)	前期
授業科目名(Course name)	総合演習Ⅰ		
担当者(Instructors)	佐々木 裕美	配当年次(Dividend year)	2
単位数(Credits)	2	必修・選択(Required / selection)	必修

■授業の目的と概要(Course purpose/outline)

国際化が叫ばれる中、意外に知らないのが自分の出身国の文化である。この演習では、中部圏の文化について探求して、考え、発信することを目的とする。中部圏は、西尾茶、有松絞り、瀬戸物、徳川園、美濃和紙、合掌造り、鵜飼、伊勢麻など、素晴らしい文化の宝庫であるので、扱うテーマは各自の興味に合わせて選ぶことが可能であるが、前期は、世界遺産合掌造り集落の白川郷を共通のテーマとして、養蚕文化の継承についての外部講師の講話と、フィールドワークを行う予定である。 授業内では、提供された素材をもとに、自分の視点でまとめ、発表する。演習仲間とのシェアを通して、お互いの意見に耳を傾け、自分の意見を発信することが期待される。

■授業形態・授業の方法(Class form)

授業形態(Class form)	演習
授業の方法(Class method)	毎回の授業では、各自がテーマに沿ってプレゼンテーションを行う。したがって、初めの数回は、プレゼンテーションに慣れるための講義と練習を重ねる。白川郷から外部講師を招いて、世界遺産合掌造り集落について学び、その後、教室から出てフィールドワークを行う予定である。

■各回のテーマとその内容(Each theme and its contents)

回数(Num)	テーマ(Theme)	内容(Contents)	メディア区分(Media)
第1回	この授業の進め方（クラスルールの共有と自己紹介）、目標設定	１年次の振り返りをした後、2年次の目標設定を行う 演習仲間とのアイスブレイク	□
第2回	１週間の振り返り プレゼンテーションのためのノート	前週の振り返り、課題の発見、行動決定 ノートの取り方について	□
第3回	１週間の振り返り １分間プレゼンテーション	前週の振り返り、課題の発見、行動決定 ノートの取り方とプレゼンの仕方について	□
第4回	１週間の振り返り・１か月の振り返り １分間プレゼンテーション、白川郷の合掌造りほか	1か月の振り返り、課題の発見、行動決定 ノートを取って発表する	□
第5回	１週間の振り返り ３分間プレゼンテーション、白川郷の合掌造りほか	前週の振り返り、課題の発見、行動決定 プレゼンをし合い、聞き合う	□
第6回	１週間の振り返り ３分間プレゼンテーション、白川郷の合掌造りほか	前週の振り返り、課題の発見、行動決定 ノートを取る、調べて深める	□
第7回	１週間の振り返り ３分間プレゼンテーション、白川郷の合掌造りほか	前週の振り返り、課題の発見、行動決定 プレゼンをし合い、聞き合う	□
第8回	1週間の振り返り・2か月の振り返り・目標設定 白川郷合掌造りほかについてまとめ	2か月の振り返り、課題の発見、行動決定 ノートを書いてプレゼンする	□
第9回	講演「合掌造り集落を世界遺産に」 （日程は、前後する可能性がある。調整後に決定）	前週の振り返り、課題の発見、行動決定 外部講師	□
第10回	1週間の振り返り、３分間プレゼンテーション 日本文化探訪、プレゼンノート作成	前週の振り返り、課題の発見、行動決定 調べてポイントを書き出すノートを取る、調べて深める	□
第11回	1週間の振り返り、３分間プレゼンテーション 日本文化探訪、プレゼンノート作成	前週の振り返り、課題の発見、行動決定 プレゼンをし合い、聞き合う	□

第12回	1週間の振り返り、３分間プレゼンテーション 日本文化探訪、プレゼンノート作成	前週の振り返り、課題の発見、行動決定 ノートを書いてプレゼンする	□
第13回	フィールドワーク	養蚕文化の継承について、白川郷の田島館で体験する	□
第14回	フィールドワーク	養蚕文化の継承について、白川郷の田島館で体験する	□
第15回	前期の振り返り・夏期休暇中の計画	前週の振り返り、課題の発見、行動決定 また、夏期休暇中の目標設定を行う	□

■授業時間外学習（予習・復習）の内容(Preparation/review details)

毎日の記録を取ることが、授業の予習となる。（毎日10分程度） 各自、自由に題材を選んで自分のプレゼンテーションを作成すること（30分）

■課題とフィードバックの方法(Assignments/feedback)

授業の冒頭には、毎回前週の振り返りを行い、常に軌道修正を行いながら、翌週の行動を決定する。 すべてノートに書いて、行動し、振り返り、次につなげる。 従って、毎回の授業では、ノートに書くことと、簡単なプレゼンテーションをすることが求められる。

■授業の到達目標と評価基準(Course goals)

区分(Division)	DP区分(DP division)	内容(DP contents)
知識・技能	**◇ 2019全学共通DP1**	日本文化について自ら興味を持って調べることを通して、学びの基礎となる社会、文化、自然等に関連する幅広い知識を習得しながら専門知識を育み、それを活用することができる。
思考力・判断力・表現力	**◇ 2019全学共通DP2**	自分が手に入れた知識についてアウトプットすることを通して、基礎学力を踏まえた専門知識と自らの経験を基に、創造的に考えたうえで、課題について的確に判断し、自在に表現、発信することができる。
主体性	**◆ 2019全学共通DP3**	自分のことばで語ること、仲間のことばを聴くこと、さらには違う考えを語り合うことを通して、多様な人々の中で自己を理解し、主体的に他者と協働して問題を解決することができる。

■成績評価(Evaluation method)

筆記試験(Written exam)	実技試験(Practical exam)	レポート試験(Report exam)	授業内試験（in-class exam)	その他(Other)
				100%

授業内試験等(具体的内容)(Specific contents)

１．毎日ノートを取って、毎回の授業でプレゼンテーションを行うことが求められる。
２．「地域と連携した活動・授業発表会」に参加するため、白川郷の合掌造り集落内にある田島館において、養蚕文化の継承を体験する。フィールドワークに出かける時期は、演習内で相談して決める。（全員が一度に行くことができないため）
３．レポートを作成し、地域と連携した活動・授業発表会にエントリーする。

■テキスト(Textbooks)

No.(No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	授業内で指示する	
2		
3		
4		
5		

■参考図書(references books)

No.(No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1		
2		
3		

4		
5		